

東海道新幹線新駅対策特別委員会会議録

令和4年6月13日

寒川町議会

出席委員 天利委員長、山田副委員長
小泉委員、山上委員、橋本委員、横手委員、岸本委員、黒沢委員
佐藤（一）議長

説明者 廣田拠点づくり部長、臼井倉見拠点づくり課長、川部副主幹、廣田主任主事
案 件

1. 新幹線新駅誘致とツインシティ倉見地区まちづくりの経過等について
(拠点づくり部倉見拠点づくり課)
2. その他

午前9時00分 開会

【天利委員長】 改めまして、おはようございます。ただいまより、東海道新幹線新駅対策特別委員会を開催いたします。

本日の案件は、次第のとおり、その他を含めまして2件になりますので、よろしく願いをいたします。

それでは、案件1、東海道新幹線誘致とツインシティ倉見地区まちづくりの経過等につきまして説明を求めます。

廣田拠点づくり部長。

【廣田拠点づくり部長】 それでは、拠点づくり部倉見拠点づくり課所管の新幹線新駅誘致とツインシティ倉見地区まちづくりの経過等についてご報告いたします。内容につきましては、地元協議会とのまちづくりの具現化に向けた取組状況や、昨年に立ち上げました神奈川県との検討会の検討内容などをご報告いたしまして、今後の町の取組姿勢などもお示ししたいと思います。したがいまして、闊達なご議論を賜ればと思いますので、よろしく願いいたします。説明につきましては、臼井課長より行います。

【天利委員長】 臼井倉見拠点づくり課長。

【臼井倉見拠点づくり課長】 おはようございます。まず、3月の特別委員会でご報告いたしました今後の予定の中で、ゾーニング（案）、またそれを支える骨格道路について、幹事の皆様から直接的なご意見を伺う場面が持てるよう、連絡協議会の役員と調整し、実施してきました。また、今年度でも引き続き倉見地区の土地利用、将来の絵姿の具現化に向け努めてまいりたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、前回3月4日の特別委員会以降の経過等につきましてご報告させていただきます。経過につきましては、タブレット01新幹線新駅誘致とツインシティ倉見地区まちづくりの経過等についてに基づきご報告させていただきますので、よろしく願いいたします。

まず初めに3月10日、地元組織である東海道新幹線新駅誘致地区周辺まちづくり連絡協議会の令和3年度4回目となります役員会を倉見地域集会所で開催いたしました。第3回協議会幹事会開催に向けての事前確認及び令和3年度事業報告及び決算報告の確認でございます。

次に、3月14日でございます。神奈川県東海道新幹線新駅設置促進期成同盟会令和3年度臨時総会が書面会議で行われております。PDFファイルは02資料1になります。タブレットの3ページをお開きください。内容については、3月の特別委員会の中でご報告しましたとおり、一般会計につきましては、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点からイベント等の普及啓発活動を中止、縮小しております。そのため事業費等の支出に未執行額が生じたことから、本年度の負担金を50万円減額し、総額310万円とし、県及び会員市町の負担金を割合に応じて県が180万円から25万円を減額、会員10市町は、それぞれ18万円から2万5,000円を減額する提案がなされました。同様にツインシティ整備調整協議会会計においてもイベント等が中止となり、県、平塚市、寒川町の3者で負担している今年度の100万円ずつの負担金を10万円ずつ減額する提案がなされ、議案のとおり3月14日付で一般会計及びツインシティ整備調整協議会会計共に承認されました。

なお、減額分につきましては、いずれも3月末に戻入済みとなっております。

続きまして、3月15日にまちづくりニュース第39号を地元関係者に向けて配布いたしました。議員の皆様にはタブレットを通じて配信済みですが、参考としてPDFファイル03資料2となります。39号では、昨年11月22日に実施した県期成同盟会によるJR東海への要望活動を中心とした内容となっており、新駅を前提としたまちづくりについて、鉄道事業者として協力できるところは協力していくという発言をいただいたことや今後の町の取組姿勢や、裏面では地元協議会の活動内容をお伝えしたものとなっております。後ほどご覧いただければと存じます。

続きまして、3月24日には、県環境共生都市課と寒川町で構成する第3回目となるツインシティ倉見地区まちづくり検討会を当町役場内で開催いたしました。検討会では、町の取組状況や今後の県、町のスケジュールの共有を図るとともに、令和4年度には、県の委託による骨格道路の道路設計を行っていくことの共通認識を持つべく話し合いをしたところでございます。神奈川県からは、道路設計をするに当たり、地元の意見を取り入れた設計にしていきたいということですので、地元連絡協議会のご協力をいただきながら進めてまいります。

続きまして、3月28日には、地元連絡協議会の第3回目となる幹事会が、倉見地域集会所で開催されました。当日は、コロナ禍で長時間とにならないよう工夫しながら、令和3年度事業報告及び決算報告を行い、承認されたほか、まちづくりの参考とするため、町職員によるつくばエクスプレスの柏の葉キャンパス駅周辺地区で進められているまちづくりと、ツインシティ倉見地区に必要な共通点である駅前広場、骨格道路、空間の使い方について、新たなゾーニング案や骨格道路案を交えて紹介いたしました。

PDFファイル04資料3をお開きください。当日は、講演会という形で幹事会を開催し、配布した資料となります。当日の幹事会には、この資料のほかに柏の葉国際キャンパスタウン構想のパンフレットも併せて配布しております。幹事の皆様には1回で全て説明するのではなく、この資料を今後も使用しながら何回も幹事の皆様方に説明し、そして幹事の皆様方がどうお考えになっているのかといった部分のご意見などをいただきながら、その都度工夫しながら説明を重ねていく考えで作成したもので、当日も同様にお話ししました。

PDFの2ページ、資料ページは1ページをお開きください。まず、改めて今日お伝えしたいこと、そして今後の流れについてお話ししました。今日お伝えしたいことは、今後のまちづくりに活かしてい

きたいということで、唐突感がないよう事例紹介をもってお話しさせていただき、今後に向けて皆様方と一緒に取り組ませていただきたいところのお話をさせていただきました。

町の将来を当然考えて行く中で、まず前提となるスケジュール感について、これは新幹線の新駅を中心としたまちづくりの話になりますので、新幹線の駅が実現する可能性についてJR東海はどう考えているのかについては、JRとしては、リニアの大阪開業以降の都市形成の状況を見て判断する見解のお話などをいたしました。地元の皆様とこれから短期的には土地利用の方向性について、柏の葉キャンパスタウンなどの実例をご紹介しながら皆様方とお話をさせていただく流れとしては、まず、町の計画を検討する方法については、具体的な土地利用の検討、こちらはPDFの3ページ、資料ページは2ページのたたき台についてまず検討していくというのが第1段階になると考えております。第2段階に、都市に必要な都市施設については、土地利用を支える道路、体の背骨のように通る道路が必要になります。それをどの場所に定めていくかを話し合っておりまいます。それをどう実現するかが最後の事業手法になります。そういったまちづくりを検討していくに当たっての流れについてお伝えさせていただきました。都市の構成として、駅前には必ず駅前広場があるように、そこに行くための骨格道路も必要になります。

どういう駅前広場や骨格道路が必要になるかについての考えは、PDFの7ページをご覧ください。こちらの資料は、今後JR東海との2回目以降の技術相談の題材にしたいというのが1つの目的でありまして、もう一つの目的は、令和4年度に県で骨格道路設計をしていただく目的がございます。また、土地利用の方向性を担保するためにも、骨格道路の配置を明確にしていく必要があると考えております。その骨格道路についてのご意見は、どういう取扱いをさせていただくかについても、PDFの8ページ右下の青枠に記載している①どのような意見が出されたのか、計画素案にご意見をどのように反映させたのか、③として、計画素案の取扱いや今後どのように進めるのかの3つに分けた段取りで進めていきたいことを幹事の皆様にお伝えさせていただきました。

当日の幹事からのご意見といたしましては、ツインシティを前進させるためには、県、町が連携を密にしていけないといけないなどのご意見をいただきました。当日は県職員も出席しており、県、町連携で進めていくことのお話をさせていただきました。今年度も引き続き協議会の皆様と意見交換を進めてまいりたいと考えております。

次に、4月13日には、倉見生産組合の定例会合にお邪魔し、第1回目となるブロック協議会を倉見地域集会所で行いました。現在コロナ禍のため、ブロック協議会が開催できない状況ではありますが、日頃地域に顔を出させていただいている中で、倉見生産組合幹事の方のご厚意により定例会合に合わせてブロック協議会の時間を設けていただき、実施したものでございます。

当日は、倉見地区のポテンシャルやJRの関係性についてや、次回ブロック協議会について具体的なまちづくりのゾーニングや骨格道路について説明していくことをご説明いたしました。会員の皆様からは、連絡協議会が一番大事な地権者がいない、地権者の組織づくりが大事なのではなどのご意見をいただきました。事務局からは、対象となる地権者は、まちづくりのエリアをご理解いただいた上で決定していくこととお話しし、共有いたしました。

続きまして、4月14日、ツインシティ整備調整協議会が当町役場内で開催され、ツインシティ整備推進センター寒川駐在事務所の運営にかかる令和3年度事業報告及び決算報告並びに令和4年度の事業計

画（案）、予算（案）等についての内容を県、平塚市、寒川町の3者で確認いたしました。

次に、4月20日、県期成同盟会幹事会がかながわ労働プラザで開催されました。ここでは、総会に向けて令和3年度事業報告及び決算報告並びに令和4年度の事業計画（案）、予算（案）等についての事前確認を行いました。

続きまして、4月22日には、地元連絡協議会の本年度第1回目となります役員会が、北部文化福祉会館で開催されました。令和4年度事業計画（案）及び予算（案）についてのご審議をいただきました。また、今年度は2年に一度の役員改選の年に当たりますが、土地利用や骨格道路の話もスタートしたことから、現役員に引き続きお受けいただくことをご承諾いただき、改めて幹事会へ諮ることといたしました。

続きまして、4月27日でございますが、県期成同盟会活動の一環として、JR東海との実務者レベルでの挨拶を行いました。PDFファイル05資料4でございます。こちらは、平成30年度から実施しているもので、4月の自治体の人事異動、7月のJRの人事異動に合わせて行っていくものとなっております。基本的には地元市町は、4月に定期的に参加することとなっております。今回は県、市町の担当者がJR東海品川本社ビルに伺い、JR東海からは、担当部長を含め3名の方に対応していただきました。内容については、専ら自治体側の新駅誘致に向けた取組をPRすることに限られ、JRからの考えを聞くことができない面談となっておりますが、まちづくりニュース39号でもお伝えしたとおり、要望回答の中で新駅を前提としたまちづくりについて、鉄道事業者として協力できるところは協力していくということもあって、終始好意的なやり取りを交わさせていただいたのではないかと考えております。今年度も引き続きJR要望の際には、具体的なコメントを引き出せるよう取り組んでまいりたいと考えております。

続きまして、4月28日には、地元連絡協議会本年度第1回幹事会が倉見地域集会所で開催されました。先ほどご説明しました役員改選、令和4年度事業計画（案）、予算（案）をご審議いただき、了承されました。

なお、現在の幹事数は22名で、そのうち今年度は7名の幹事に新たに加わっていただいております。3月28日に行った幹事会の内容や今後の取組、倉見大神線の情報提供を事務局である町から行わせていただいております。

続きまして、5月16日には、県期成同盟会総会はオンラインにより開催し、町からは木村町長が出席いたしました。資料はPDFファイル06資料5でございます。この資料につきましては、総会議案書等の写しのほか、町で作成した総会当日の主な発言を載せてございます。総会での議事といたしましては、令和3年度事業報告、決算報告並びに令和4年度事業計画（案）、予算（案）が審議され、いずれも原案のとおり承認されました。また、地元自治体である平塚市長及び寒川町長より取組状況を報告し、その後総会決議案が了承されました。また、同盟会事務局からは、議案と合わせて倉見大神線の都市計画変更手続についての報告資料提供があり、資料はPDFファイルの22ページ、資料は16ページとなります。

（仮称）ツインシティ橋の整備について、ツインシティ整備計画では、寒川町と平塚側の交通を円滑に結ぶため、県道46号から国道129号までの一般交通部2車線と新駅交通広場からトランジットセンタ

一までの公共交通専用部2車線を合わせた4車線での整備を想定しており、このうち一部を除いて倉見大神線として都市計画決定しています。

一方、公共交通専用部の整備については、整備手法などに課題が多いことから、県道46号相模原茅ヶ崎から国道129号までの一般交通部4車線として整備を進めることとしました。現在はツインシティ大神地区土地区画整理事業区域内の一部区間について、令和4年度の完成を目指して整備を進めております。今後令和5年度に倉見大神線等の都市計画変更を行い、ツインシティ橋の整備に取り組んでいくとのことです。

都市計画変更のスケジュールにつきましては、倉見地区のまちづくりにも密接に関わることで、後段で説明いたします倉見地区のまちづくりの取組スケジュールと併せてご説明いたします。こうしたまちづくりに関わることは、速やかに地元連絡協議会やニュースで地元へ情報提供し、唐突感のないようにしております。

続きまして、5月25日に、まちづくりニュース第40号を地元関係者に向けて配布いたしました。議員の皆様にはタブレットを通じて配信済みですが、参考としてPDFファイル07資料6となります。40号では、3月の役員会や幹事会でお伝えしたゾーニング案や骨格道路案について話し合いが始まったことや、倉見大神線等の都市計画変更についての内容をお伝えしたものとさせていただきます。後ほどご覧いただければと存じます。

続きまして、6月1日に岸本委員のご紹介により、次世代層との意見交換会、名称につきましては仮称ではございますが、倉見地域集会所で開催しました。これは日頃地元説明に際しては、私どもとしては、主に地権者の方々を中心にお集まりしていただくことが多いため、ご高齢の方に向けた情報共有をする機会が多いのですが、この事業は、将来の土地利用について長期にもわたる議論が必要と考えております。定期的にご家庭にもニュースなどをお届けしておりますが、ご家族を含め将来の中心世代、責任世代の担い手となる方々にメッセージを発信し、今後定めていくツインシティ倉見地区の将来像の検討に必要な情報を共有し、幅広くご意見を伺える環境づくりのためにも直接の対話の機会を設けるべきと考え、過去にお示ししておりますまちづくりにおける短、中、長期の取組スケジュール（案）にも次世代層の掘起しと位置づけておりますことから、実施しているものでございます。

コロナ禍において、多くの方をお呼びしての会合は、なかなか実施することはできませんので、当日は地域にお住いの子育て世代の方にまちづくりやその新駅設置までのスケジュールなどについてお伝えし、子育て世代ならではの視点でざっくばらんな意見交換ができました。今後も参加していただいた方々や地域の皆さんにお知り合いをご紹介していただくなど、裾野を広げながら継続してまいりたいと考えております。

続きまして、PDFファイル08資料7をご覧ください。このスケジュール（案）は、5月16日の期成同盟会総会の説明の中でご報告いたしましたように、県では、（仮称）ツインシティ橋について公共交通専用部の整備手法などに課題が多いことから、県道46号相模原茅ヶ崎から国道129号までの一般交通部4車線として整備を進めることとしました。（仮称）ツインシティ橋の一般4車線化については、既に本特別委員会や地元協議会をはじめとした地域の方には、随時情報提供を行い、唐突感のないようにしてまいりましたが、倉見大神線都市計画変更はツインシティ倉見まちづくりにも影響してまいります。

まず、倉見大神線等の都市計画変更は、神奈川県決定案件となりますが、令和4年7月に予定しております町都市計画審議会において、倉見大神線の都市計画変更手続を説明する前の段階で、地元連絡協議会への報告や地元の方への説明会を県環境共生都市課と共に行う予定でございます。

説明内容といたしましては、記載のとおり、県からは県の南のゲートとしての考え方やツインシティ橋一般4車線化となった経緯や考え方について話していただく予定です。町からは、新駅開業までのスケジュール感を共有し、ゾーニング案や骨格道路案についての説明、2回目以降のJRの技術相談を進めていることなどの予定について説明してまいりたいと考えております。また、当日都合により来られなかった方につきましては、戸別訪問などで随時説明していきたいと考えております。

点線で囲われました地元説明会は、必要に応じて6月から7月にかけて行う倉見地区まちづくりの説明会や、その後の戸別訪問などで出た意見でフォローアップが必要になった場合を想定してスケジュールを組んでおります。そういった経緯を経て令和5年2月に案の申出を行い、令和5年度末に神奈川県より告示される予定となっております。

記載された内容の報告については、以上となりますが、地元協議会においては、5月中は地元幹事の方々とブロック協議会開催の調整や倉見大神線の情報提供、倉見まちづくりの今後の予定の話を中心にやってまいりました。

今後につきましては、地元の連絡協議会をはじめ、関係権利者と倉見大神線の都市計画変更に合わせて倉見まちづくりの変更点やゾーニング、骨格道路などについて地元の方と取り組んでいき、地元のご意見を反映した成果を持ってJRと2回目の技術相談につなげてまいりたいと考えております。

報告につきましては、以上となります。よろしく願いいたします。

【天利委員長】 説明が終わりました。これより質疑に入りたいと思いますが、質疑はございますでしょうか。

横手委員。

【横手委員】 最近僕の中でマイブームになっているのは、リバーメンターという言葉でありまして、割と若い方たちから意見を聴取して、それを政策に反映していくというやつなんですけど、それに近い形で今回子育て世帯の方たちから、いろいろとご意見、意見交換会をしたという話なんですけども、より若い方たちの意見だったり、それから、未来予想図みたいなものを聞き入れるために、例えばなんですけど、考え方として、メタバース、いわゆるバーチャルリアリティの世界の中に倉見の未来の町をメタバース上につくって、みんなで体験してもらって、様々な意見を言い合いながら改良を加えていく、それから、そういうことをやっていくこと、メタバースみたいな形でバーチャルリアリティの世界を見せることで、より具現化した考え方に踏み込んでいけるんじゃないかと思うんですけども、その辺についてはどのようにお考えですか。

【天利委員長】 臼井倉見拠点づくり課長。

【臼井倉見拠点づくり課長】 ただいまお話しいただきましたバーチャルリアリティの世界ということで、今年度つい最近なんですけれども、神奈川県さんでお作りしていますバーチャルリアリティのものを使いまして、実際地元にお示ししまして、先ほどお話ししました次世代の方の中へもそういったものをお示しさせていただいて、お話をさせていただいているという状況です。

そういったものをお見せすると、視覚的に目で見て、すぐ目の前で、画面上なんですけども、分かるということで、皆さんすぐ、こういうことなんですってねということは分かっていたらいいということが当然ありますので、今後もまずそういったものを機会を捉えてどんどんこちらは使っていきたいと思っておる次第でございます。また、次世代の方とこの間1回やらせていただいたんですけども、さらにまたやりたいというところは、正直、ございますので、私どももそういった皆さんとお話しできる機会を何とか見つけようということで、今考えているところでもありますし、また皆さんでもそういったもし機会があるようでしたら、お話ししていただければ、積極的にそういった場に行きまして、お話しさせていただいたと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

【天利委員長】 横手委員。

【横手委員】 バーチャルリアリティはいいんですけど、それは中に入って行って、例えばいろいろあって、オキュラスというメーカーが一番トップを走っているんですけども、本当に専用のグラスをつけて歩いていったりできるのか、それか、もしくはメタバースのような空間の中に行って、ジョイスティックなんかを使いながらパソコンでもできますけど、パソコンやタブレットとかスマホでもできますけども、自由に歩き回れるような形のものなのかというのをまず聞かせてください。

【天利委員長】 川部副主幹。

【川部副主幹】 今回私どもが使わせていただいたVRにつきましては、メタバースまで、仮想空間まで入り込んでやるというのではなくて、そこまでに至っていないんですけど、実際に画面が上からどんどん近づいてきて、実際に歩けるような、そういったVRのものを使わせていただいて、それをもって実際倉見の町は将来こうなるんですよというところを目で見て分かるような形でやらせていただいたので、実際今後地元の意見とかを伺いながら、例えば倉見のまちづくりの意見を聞いた中で、いただいた意見をVRに反映させていった中で、ある程度完成したところで、お金は幾らかかるか分からないんですけど、そういった仮想空間とかにもやっていけるような、たしかシステムだったと思いますので、今後そういったものは引き続き研究して、実際に必要になったときにはやっていきたいと思っております。

以上です。

【天利委員長】 横手委員。

【横手委員】 多分それをやっていくことによって、大分感覚的に、こういうことなのねというのが理解していただけると思うんです。多分いわゆるパースレベル、絵レベルだと、なかなか難しく、そうやって動いて実際に中に入って行って、例えば歩いて見るようなことができるようになってくるのかなと。今現実にそこまで技術的にはできるところまで来ているという中で、どこまでそれをやるかというのが、これからみんなで考えなければいけないのかなと思うんですけども、特に今を生きている方たちというよりも、未来を生きる方たちに対して、どうプレゼンテーションしていくかだと思っておりますので、そのことについて、ぜひメタバースとか、新しい技術というものをバーチャルリアリティ、メタバースを積極的に取り入れていっていただきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。これは要望で結構でございます。

【天利委員長】 他にありませんでしょうか。

山上委員。

【山上委員】 今回次世代層は、今、横手委員も言われていたんですが、次世代層との意見交換を行ったということで、非常にいいことだと思います。次世代の方、今回出られた方というのは、町全体ですか。倉見地区の方だけなのか、どこの地区、そういったところというのはお分かりになりますでしょうか。

【天利委員長】 川部副主幹。

【川部副主幹】 今回次世代層との意見交換をさせていただいたところなんですけど、実際まだ倉見地区のエリアも決まっていない中で提案させていただいているところの中で、まずは倉見地区に関係する若い方、また子育て世帯の方、そこで働いている方とか、そういった方と個々にお話をしていきたいと今考えている中でやっておりますので、今現在は倉見地区の、今回行ったのは、倉見地区にお住いの方になります。

以上です。

【天利委員長】 山上委員。

【山上委員】 分かりました。まちづくりは町ぐるみでやらなければならないと自分は思っていますので、できれば今後、例えばお話しさせていただきますと、実は大曲に住んでいる方は、実際駅がどこに計画されているのかというところが、まだはっきりと分かっていないようです。現存する相模線の倉見駅、ここには造れないよねという意見があったりするので、認識不足ではあるとは思いますが、できれば町ぐるみでやっていくまちづくりというところの観点から、今後田端であったり、大曲であったり、岡田の東側であったりというところで、そういったところの次世代の方もぜひとも取り入れていただけたらなと思います。

【天利委員長】 白井課長。

【白井倉見拠点づくり課長】 ただいまご意見いただきまして、ありがとうございます。今後につきましても、幅広く町の中で皆様からご意見をいただきたいと思っておりますので、そういったところを踏まえまして、こういった機会をつくれるように、こちらもいろいろとトライしてまいりたいと思えます。また、6月末から、まちづくりの説明会を行いますので、そういった場にも地元以外の方にお越し願ひまして、こちらで丁寧にご説明をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

【天利委員長】 ほかに質疑はございますでしょうか。

黒沢委員。

【黒沢委員】 今年度重要な仕事として、倉見大神線の計画の変更、これを寒川町としては地元の皆さんにしっかりと理解していただいた上で、変更までこぎ着けなきゃいけないというのが1つの大きな仕事かなと思うんですが、現行の計画、これまでの計画でいくと、129号線から県道46号線を越えて、倉見のまちづくりの部分についても、県で整備されることになっていたのかなと思うんですけど、今回の変更は、県道46号線までということになりますが、これはここまでの話で、そこから町の整備区域に入っていく駅広までの間、ここは町のまちづくりの中でやっていくという理解をしなきゃいけないんでしょうか。

ここの駅広まで入ってくるところが、なぜ入っていないかという原因の1つとしては、寒川町のまちづくりとしての絵が描かれていなくて、駅広がどこになるか、どういう形になるかというのが分からないから、県道46号で止められているのか、その後まちづくりが決まった際には、寒川町のまちづくりの中でこの道路をつなげていかなきゃいけないものなのか、その辺をどう理解すればいいのかお聞かせいただけますか。

【天利委員長】 川部副主幹。

【川部副主幹】 今回の倉見大神線の都市計画変更に伴いまして、委員のおっしゃるとおり、129号から今回は県道46号までを一般4車線化する計画変更を県がさせていただくことになっております。当初公共交通部につきましては、県道46号線を越えて駅前広場にタッチするという計画であったんですが、整備手法の課題等が多いということで、今回は県道46号線までということになります。変更後は県道46号から駅前広場まで、公共交通部も一般交通部も合わせた形で駅前広場に入っていくというような計画にはなっていくところで、その整備はどこがやるかということにつきましては、県とは前々から話をしておりまして、実際我々としては倉見大神線の一部として県でやっていくべきだろうというところは県には再三伝えておりますので、実際整備につきましては、まちづくりのエリアのセットとなりますので、セットとして施行はするんですが、そこをお金をもらうのか、先行で整備するのかということについても今後県とは調整していくところでございます。

【天利委員長】 黒沢委員。

【黒沢委員】 今先行してやる可能性もあるというようなご発言があったんですが、駅広がどういう形になるかとか、駅広がどこの場所になるかというのは分からない中でも、県として先行してそこまで引き込む可能性というのはあるということですか。

【天利委員長】 川部副主幹。

【川部副主幹】 大変申し訳ございません。まず、倉見のまちづくりにつきましては、駅が決まって、駅広の位置も決まって、まちづくりもある程度決まった中で初めて道路を先にやっていくのか、面とセットで工事をしていくかということになってくるかと思えます。すみませんでした。

【天利委員長】 黒沢委員。

【黒沢委員】 そうなると、駅を造っていいですよってJRの答えがない状況では、実際には46号は越えないという理解になるしかないと思うんですね。それはなぜかという、寒川町としてのまちづくりの絵は、駅が来ますという段階になってすぐ出せるようなところまで持っていくんでしょうけど、実際に来ると決まってからじゃないと、町としてのそういったものが計画としては上がってこないという、正確な理解としてはね、そういうことだと思うんですけど、そうなると、さっきおっしゃっていたように、今の段階で県とはそういう話合いをしていますよ、お金を頂くのか、県道で整備するのか、基本的には町のスタンスとしては、ここの部分については県が100%持っていただくのが当然でしょうという態度を取られているんでしょうけど、そこに何らか担保って取れるものなんですかね。口約束だけで大丈夫なのかな。そういう中で地元の皆さんが理解できるのかということところが、ちょっと不安なんですけど、というか私も不安なんですけど、だから、そこは話合いというか、書面みたいなやり取りとかというのが可能なかどうか、その辺をどう捉えているかお聞かせいただけますか。

【天利委員長】 廣田部長。

【廣田拠点づくり部長】 今費用負担の話で、それがかなり多額になりまして、相手方が神奈川県だという内容になりますので、私からお答えさせていただきます。

現時点では、先ほども申し上げましたが、神奈川県と具体的にツインシティ倉見地区まちづくり検討会というのを立ち上げていまして、その協議課題の1つが費用負担の問題となっており、その中で当然語られる話で、議事録もきちんと作りますので、文書を取り交わすまでのこともないのではないかなというように、これは行政間の話です。費用の負担を求めるに当たっては何が必要になるか、町として。それは、どう整備効果が上がるまちづくりを我々が計画するかにかかっております。これだけの整備効果があるんだったら、そこにこれだけのお金がかかるんだったら、寒川町1自治体で負担できるものでもないし、神奈川県としても、南のゲートとしての位置づけがあるといったところから、投資する理由にはなるといったような話に結びつけていくためにも、高度な土地利用計画を町が策定、地元と協議して合意を得られるレベルでの提示をしていくというのが最初になろうかと思っております。これについては、対JR東海についても同じ話になりますので、よりよい発言をいただくためにも、そういった全ての問題解決のためにも、高度な土地利用計画を策定するということが先に重要になってくると考えております。

以上です。

【天利委員長】 他に質疑はございますでしょうか。

小泉委員。

【小泉委員】 1点お伺いします。今回例えば幹事会の資料でも、いよいよいずみ野線延伸を想定したというような言葉が具体的に入ってもきましたし、またさらに総会議案書ですかね。こちらでも、いずみ野線の湘南台から倉見までの延伸について、現在地元自治体や鉄道事業者とともに延伸の実現に向けて検討を深めているところですが、このような文章もあり、いずみ野線延伸に関して、今藤沢市側では、具体的に2つの駅の位置が決定されたというようなニュースもありましたが、この検討状況は、寒川側に関して現状はどうなっているのか、何か話があればぜひお伺いしたいなと思っております。

【天利委員長】 川部副主幹。

【川部副主幹】 いずみ野線の延伸につきましては、湘南台から倉見までの延伸を目指す中で、まずは湘南台から慶応義塾大学湘南藤沢キャンパス周辺までを先行区間として実現に向けた検討を進めておりまして、先行区間には駅を2つ設置することとなっております。1か所目としましては、A駅として既に住宅や商業施設、工場が立地しているエリアにおいて、駅へのアクセスや地形などを踏まえて、湘南台から西側2キロ地点で、道路の地下に駅を設置する計画となっております。また、2か所目につきましては、B駅としまして、慶応義塾大学湘南藤沢キャンパスとその周辺エリアからのアクセスに考慮して、キャンパス周辺の幹線道路の交差点付近に高架構造で駅を設ける計画となっております。

現在県と地元市町と鉄道事業者等で構成するいずみ野線延伸検討協議会において、湘南台から慶応義塾大学までの区間を実現に向けて鉄道事業の確保のため、より多くの鉄道を利用していただくための方策や国の補助金等も含めて、事業スキームを今現在行っているところでございます。

以上です。

【天利委員長】 小泉委員。

【小泉委員】 ありがとうございます。今のご説明ですと、これは本当に藤沢の慶応前のところまでなのかなというような、なので、つまりこれは倉見までは全然具体も何もないのであろうというような印象を受けました。そうした中で町としては、これは今回の幹事会資料というものを使っているように、これは一応想定というような言葉で将来像を検討のためのたたき台というところに載ってもきているところなんです、例えばこの感じだと、きっとこれは地下に整備するしかないのかなと、私は何となくこれをぱっと見て、そういう印象もあるんですが、これは地下化するのか、それとも逆に高架化するのかどうか、そういうところの町として何かしらの検討というのは現状あるのかどうか、想定ですね。そういうものがもしあればお知らせいただければと思います。

【天利委員長】 可能な限りで結構なので、川部副主幹。

【川部副主幹】 現在国の交通政策審議会の中で湘南台から倉見として位置づけられた中で、整備としてはそこまでの区間になるんですが、現在は、先ほどお伝えしたとおり、慶応義塾大学までということなんです、そこから倉見までどういったルートで、例えば倉見の新駅の北側なのか、南側なのか、地下なのか、高架なのかということにつきましては、まだまだこれからの検討段階ではあるんですが、町としましては、こちらのゾーニング図に描いたとおり、町の北部の都市未来拠点として位置づけられておりますので、寒川町の町域を考えたときには、南側に来たほうが町全体としては使い勝手がいいだろうとか、そういったことを考えて、今回ゾーニングはさせていただいておりまして、それがまだ高架だとか、地下だとか、そういった検討までにはまだ至っていない状況でございます。

以上です。

【天利委員長】 他にございますでしょうか。

(「なし」の声あり)

【天利委員長】 それでは、これをもって質疑を終了させていただきます。ご苦労さまでした。暫時休憩といたします。

【天利委員長】 休憩を解いて会議を再開いたします。

続きまして、案件2、その他であります、委員の皆様から何かございますでしょうか。

(「なし」の声あり)

【天利委員長】 それでは、事務局はありますか。

(「なし」の声あり)

【天利委員長】 それでは、以上で全ての案件が終了いたしました。

これもちまして、東海道新幹線新駅対策特別委員会を終了いたします。最後に副委員長よりお願いいたします。

【山田副委員長】 これもちまして、東海道新幹線新駅対策特別委員会を終了します。お疲れさまでした。

午前9時52分 閉会

寒川町議会委員会条例第27条の規定により、ここに署名する。

令和4年8月25日

委員長 天 利 薫